

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第70号 2020年9月30日発行

+++++

季節の移ろいがあまりにも早く、金木犀が薫り、もう仲秋の名月です。素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、そして真情を見いだしては称賛し、共感し、結び励まし合いたいですね。

「季節の花々」では、ささやかな散歩道や日帰り探索も掲載しています。

皆様も世情に十分に注意をなさりながら、どうぞお大事にお過ごしください。

○お知らせ

1. 東京学芸大学のコカ・コーラ（アメリカ）プロジェクトに関連して、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボの復活提案が南先生や鈴木さんからあり、藤野の宮本さんの栽培するキビやホップを使って、山口さんにビールを醸していただけるように、9月28日にお願ひに行き、快く応対して下さいました。

宮本さんの雑穀畑ではキビもホップも良く育っていました。山口さんのクラフトビールも美味しかったです。

今後は雑穀街道普及会で地場産物を勝手に紹介します。とりあえず、訪問記は下記サイト「季節の花々」に載せました。

www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html

2. 植物と人々の博物館をめぐるミュージアム研究会、雑穀街道普及会などの在り方を検討しています。COVID19が小康状態になったら、小菅の雑穀見本園を維持して下さいている秋子さんや関係者にお会いし、植物と人々の博物館の在り方についてご意見をうかがうつもりです。

最近、小菅村誌を改訂されておられる藤木さんが訪問して下さいました。安孫子さんが鑑定して下さいました、秋子さん畑の縄文土器を喜んで下さったそうです。

3. 日本雑穀協会の視察: 9月14日に雑穀協会と岩手県の方が西原の冨澤さんおよび藤野の宮本さんの畑を見においでになる予定はCOVID19により中止になりました。

○予定: ヴァイラス感染が小康状態になったら、資料整理や雑穀見本園の草取りに行きます。

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日: 2020年10月は引き続きヴァイラス対策のため休館します。

2) 雑穀の種子継:小菅は秋子さん、藤野では宮本さん、秩父では佐野さん、厚木では玉木さんらが種子継をしてくださっています。小金井でも、ささやかにプランタで栽培して種子継をしました。生育状況は上記サイトでお見せしています。

これから播くディルともうすぐ種取をするバジルの種子を差し上げます。ディルはイギリスのキュー植物園で買ってきて10年以上自家採取していますが、順次間引きしながら半年は楽しめます。バジルは初夏に播いて、ジェノベーゼソースを夏中に何度も作れます。

3) 民族植物学ノオト: 第14号に、植物と人々に関する随筆など、ご寄稿を歓迎します。電子出版ですからカラー写真も大丈夫です。年内にご原稿を頂ければ嬉しいです。

今号に、編集子は山村社会について40年余りの経験を分析、熟考したエッセイ2編（第一論考、第二論考）を載せます。3部作ですが、第三論考「素原の超個人主義」（理論編）は下記ホームページのエッセイに既に掲載しました。

www.millemplac.net/essey/essey.html

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。

メールマガジンもすべて記録してあります。すべて費用はかかりません。

www.ppmusee.org/goods.html

4) 電子書籍: 植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍の項で読めます。これらは国立国会図書館のeデポに登録され、公開されています。

『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』『日本雑穀のむら』は一部公開、改訂しています。

赤石山脈周辺の雑穀の変異と系統について、実験材料を収集して下さった川上さんに見て戴いて加筆修正し、第五章中部・北陸地方の雑穀文化複合の補論5として公開しました。

『第四紀植物』は近日中に一部公開し始めました。

“Essentials of Ethnobotany”の一部公開はまだ先になります。これらは書き終えたら、電子出版にします。

5) 森とむらの図書室

寄贈冊子：お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。会員雑誌：雑穀研究、環境文明 21 会報（学協会は退会しました）。

クリンネスに来年から隔月連載で、節供の植物の伝統知について小エッセイを書きます。

6) 今月の推薦図書：ホイジンガ, J. 1938、高橋英夫訳 2019、ホモ・ルーデンス（改版）、中央公論社、東京。

苅谷剛彦・吉見俊哉 2020、大学はもう死んでいる？—トップユニバーシティーからの問題提起、集英社、東京。

7) 年内に将来計画はいずれご相談します。

2. 雑穀街道普及会：

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。

雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023 年は国際雑穀年になります。

ぜひ、賛同者リストに加わって下さり、提案が広がるようにご援助くださいますよう、世界、全国各地からのご連絡を宜しく願います。雑穀街道沿いの地場産物や活動の訪問紹介も掲載することにします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、45 年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第 5 章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnmpilvil.html>

○ お知らせ 関心のある団体から

皆様方は既に予感しておいででしょう。これからは一層厳しい時代に入ってしまうから、家族を守るために本気で心して自給知足の努力や食料備蓄を心掛ける必要があると思います。

家族の食べ物は自分たちで得ること（生業）が原則で、足りない食べ物を分けていただいていること（農林漁業）に感謝したいです。すべて消費、廃棄だけでは、生き物の文明、素のままの美しい暮らしには添いません。専任研究員は、日本国憲法に環境原理、生業の自由、食料主権などを明文化する提案をしています。国民・市民は自分たちを守るための条文を憲法に明記するように考える必要があります。既にいくつかの国々では明文化されています。

COVID19の猖獗する今、直接対応のみでなく、近い将来を見て日本の基盤、特に生業、教育、環境、基盤産業、エネルギー、を再検討、再構築する国の政策が必要です。また、個人の自律、自給知足、さらに個人を超える拡大個人の教養・思い遣り、第7感（良心）への『内面への道』（ヘッセ）を深慮したいです。

小金井環境市民会議

小金井市環境基本条例の策定時（2003）に委員でした。この条例第7章環境市民会議、第27条には要約すると、市民らが環境市民会議を置き、環境保全施策などについて市長に意見を述べることができ、市はその活動を支援するとの趣旨があります。とても先進的な位置づけにできたと、当時、編集子は考えて協力しました。東京学芸大学はじめ、東京農工大学、法政大学、東京経済大学など市内各大学は環境フォーラムを順次引き受けて、数百人の市民が参加していました。この条文に賛成作成した元委員として責任を感じており、その後も環境会議会員でいます。しかしながら、今ではあまりに活動が低調になり、今後についての話し合いが行われています。

小金井市には大きな都立公園も多く、環境などの市民団体それぞれの良好な活動も少なからずあるのですが、それらをつなぐことができていません。NPO 小金井環境ネットワークもできたのですが、市民への普及は進んでいないようです。日本ではどこも同じ状況かもしれませんが、若い人たちが参加して、中心となりこの良い制度をつないでほしいです。

トランジション・ジャパン

ご関心の方は参加ください。エコミュージアム日本村（トランジション小菅）もネットワークに参加しています。また、研究員はトランジション小金井（TTK）の会員でもあります。

家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン (国連家族農業の10年)

ご関心の方は是非ご入会ください。研究員個人として賛同し、会員になり、ホームページに意見を掲載していただいています。農水省基本方針改訂へのパブリックコメントにも掲載されています。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

連絡先は下記です。

E-mail: info@ffpj.org URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019>/Twitter: [@FFPJ2019](https://twitter.com/FFPJ2019)

~~~~~

自然文化誌研究会 (東京都日野市) : 代表 中込卓男、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

ミュージアム研究会/トランジション小菅 (山梨県小菅村) : 代表、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) : 館長 木下善晴

日本村塾生・研究員: 木俣美樹男 (東京)、西村俊 (石川)、藤盛礼恵 (千葉)、川上香 (長野) ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長: 黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式 HP: 自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行: 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP: 生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

~~~~~

木俣美樹男 Mikio KIMATA kibi20kijin@yahoo.co.jp

植物と人々の博物館/日本村塾 研究員塾生

Nihonmura College for Environmental Studies, Plants and People Museum

公式 HP: <http://www.ppmusee.org>

個人 HP: <http://www.milletimplic.net>